

山口県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和元年11月8日(金) 13:30~14:30

2 会 場 山口県庁4階 共用第1会議室

3 開 会 (事務局)

4 知事挨拶

平素から本県の教育行政の推進に多大な御尽力をいただいていることに対し、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、本日は、今年度第1回の山口県総合教育会議にお集まりいただき、感謝申し上げます。

本県は、人口減少、少子高齢化が進行し、特に、将来の社会の担い手となる若者が大きく減少する大変厳しい状況にある一方で、AIやIoTなど「Society5.0」といわれる超スマート社会を実現する新たな技術は、暮らしや社会、経済に多くの革新をもたらし、地域が抱える様々な課題を解決する可能性を有している。

こうした変化の激しい時代の中で、若者が困難な課題に挑戦し、それを乗り越える力を身に付けることができるよう、新しい時代の人づくりを進めていかなければならないと考えている。

このため、私自身が、県内外の有識者から直接御意見・御提言を伺うとともに、国の「教育再生実行会議」における技術革新を活かした教育環境の整備に係る提言、「まち・ひと・しごと創生基本方針」における人づくりに焦点を当てた取組等も踏まえ、現在、今後県が取り組むべき人づくりの指針となる推進方針の策定を進めているところである。

本日は、これまでの有識者との議論に基づく人づくり推進方針の中間整理をお示し、推進方針の方向性や取り組むべき内容などについて、委員の皆様から御意見や御提言をいただき、推進方針の内容をさらに深めていきたいと考えているので、よろしく願いしたい。

5 議事概要 (議事進行：知事) ※委員発言：● 事務局説明等：○

(1) 山口県新たな時代の人づくり推進方針(素案に向けた中間整理)について

(2) 令和元年度の重点的な取組に対する対応について

(3) 令和2年度重点取組方針について

○事務局から別添資料に沿って一括して説明。

●宮部委員

新たな時代の人づくり推進方針は、中間整理といいながら、非常に立派にまとめられていると思う。

推進方針に「新たな時代を担う人材像」が示されているが、I o TやA Iが進む中、自らが問題を発見し、解決する能力を養うことは、本県の教育振興基本計画の教育目標でめざす「やまぐちっ子のすがた」と方向性が同じであり、非常に良い人材像と思う。

推進方針「3 学校教育・若者育成に向けた取組」について、ふるさと山口の誇りと愛着を高めるため、《ふるさとを学ぶ》ことについては、従前から言われていることだが、本県は立派な先人がおり、歴史遺産もたくさんあるが、子どもたちや親は、歴史を本当に理解しているか疑問も感じている。

教育委員会のホームページにも偉人のことが分かりやすく書かれているが、なかなか接する機会がなく、私の地元の岩国も偉人がたくさんおられるが、深く突っ込んでどんな活躍したとかいうことが見えていないところがある。先人を学ぶ、歴史遺産を通して学ぶことについては、漫画や絵本を使うなど、小学生から高校生まで深く理解できるような方法があればいいと思う。

《憧れの連鎖》について、第2回トークセッションで有識者から、地元で活躍するカッコいい大人の姿を見せたら、子どもたちも地元へ戻ってくるのではないかという話があった。今は、憧れが東京の大学や大阪の大学など都会にあるが、それを地元にもあるよ、大人たちが頑張っているよ、楽しんでいるよという姿を子どもたちに見せる機会を増やしていけば、地元に戻って来るのではないかと思う。

また、「コミュニティ・スクールの深化」の《「変える」体験》を実現することについては、特にコミュニティ・スクールにおいて、何を言ってもダメではなく、頑張ったら物事が変わるということが分かれば、子どもも大人からもどんどんいい意見が出るし、実際にそこに人も集まるし、動いていくのではないかと思う。

もう一つは、高校生の県内定着について、先日、建設I C Tのビジネスメッセが開催され、全国のトップランナーの人たちの話を聞いたが、今のI C T技術を使えばゲーム感覚でドローンを飛ばして測量したり、パワーショベルやブルドーザーを運転できるシステムがあり、経験のない子どもたちがその機械を操作してうまくいったら、今度は逆に測量や道具のことを勉強し始めてくるという話があった。

いろいろな産業があるが、特に建設業は地元就職が非常にたくさんあるということで、昔は建設業も3 Kと言われることもあったが、今は国交省をはじめ業者も努力しながら建設業の魅力を高め、地元の人に人を定着させる取組をしているので、県でも是非、地元定着に向けた施策を進めていただきたい。

●村岡知事

お話のとおり皆さんそれぞれ地元に残るような努力をいただいているので、県としてもその後押しができるよう、取組を進めていきたいと思う。

歴史に学ぶことはとても重要だが難しいというお話は、そのとおりだと思う。岩国市は漫画を使って非常にわかりやすく紹介されており、いい方法だと思っているので、県としても研究していきたい。

憧れの連鎖については、地元で活躍する方々を実際見せていかないといけないと思う。今は東京など大都市がかっこいいとマスコミ等を通じてどんどん発信されているが、地域や地域で活躍する人の魅力などをしっかり伝えることが必要だと思う。

●佐野委員

新たな時代の人づくり推進方針については、よく検討されており、トークセッションなどのプログラムも一つの方向に向いていると感じられ、いいと思う。

現在、県教委が推進しているコミュニティ・スクールや「やまぐち型地域連携教育」と、学習指導要領で本格的に取り入れられるアクティブ・ラーニング、「主体的・対話的で深い学び」が、山口県に合った内容で実施されることで、新たな時代の人づくりの実現に近づくのではないかと考えている。

ふるさと山口の誇りや愛着を高めるためには、歴史や文化の把握や理解が大切だと考えており、時代や見方によって先人たちの功績がいろいろな解釈をされることがあるが、自分たちの志の源となる歴史や文化について、自分たちがしっかりと見方や解釈を持っていることが大切である。

子どもたちが山口県の先人たちが何をしようとして現在に至っているのか、自信を持って語れるようになってもらいたい。

そして、コミュニティ・スクールを通じて多くの地域の人たちとの繋がりや交流から子どもたちの意識の中にしっかり山口というものを持ってもらい、山口県が将来活躍する基軸になってもらいたい。

また、子どもたちがそれぞれの成長の段階に応じて、主体的・対話的に学ぶ手法や習慣を身に付けて、生涯学び続けることが楽しくなるようになってほしい。そして、新しいものを見て、感じて、学ぶことが次の未来を切り拓く楽しさに繋がるようになってほしいと思う。

コミュニティ・スクールが小・中学校、総合支援学校、高等学校へと広がっており、「主体的・対話的で深い学び」に取り組むことで、学ぶ子どもたちの雰囲気や能力が高まった事例も出てきているのではないかと。

コミュニティ・スクールやアクティブ・ラーニングは、よりよい教育を実現するための仕組み、手法、道具の一つである。手法、道具に振り回されるのではなく、効果的に活用することが重要であり、そのことを理解している指導者、校長先生がいる学校で効果や成果が表れているのではないかと感じている。

是非、コミュニティ・スクール、アクティブ・ラーニング、ICTといった言葉だけに捉われず、それらの活用や指導ができる方を登用し、意欲がある指導者が先進的な事例やプログラムに触れる機会を支援していくことが今後必要

ではないかと思う。

I C Tについて、大型ディスプレイとしての電子黒板やタブレットP C、ネットワークなど、現在の社会では当然のように使用されているが、山口県の学校では、児童生徒が利用するコンピューターやネットワーク環境がまだ十分ではないと感じている。

日常で子どもたちが利用しているI C T環境に学校の環境が追いついていないのではないかと、そして、本来であれば効果的に利用されるべき動画とか音声などが、子どもたちの知的な好奇心に結びつくほどの利用ができていないのではないかと感じている。

是非、コミュニティ・スクール、アクティブ・ラーニング、I C Tといった仕組みや手法、道具を活用し、子どもたちのやる気スイッチを探すだけでなく、反応する感性を育てていく授業が行われ、子どもたちの可能性や能力を高めていただきたいと感じている。

●村岡知事

コミュニティ・スクールは、来年度、全ての公立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校への導入が完了することになっている。

これは、山口県の取組のベースになるもので、基盤、仕組みができる中、しっかりと成果をあげるためには、例えば校長先生など中心となる方々がしっかりと引っ張っていくということが重要である。

成功している学校の成果や仕組みをしっかりと把握、分析して、他のところにもしっかりと広がるように進めていく必要があると感じており、やはり人が重要になっていくので、中心となる人材を育成していきたいと思う。

I C Tの関係は、山口県はいろんな基盤がまだ整備されてないところもあるが、国でもしっかりとやっていこうという動きが出てきているので、我々も力強くやっていかないといけない。

これからI C Tは、子どもたちが社会に出る頃には今以上にもっと身近に活用されていくことになるので、学びの中でしっかりと身に付けなければいけないと思う。

I C Tを活用した教育は、教材や先生の指導がうまくいかないと、子どもたちが興味を持たず効果も上がらないと思うので、機器整備だけを進めるのではなく、有効に活用するための方法、人材育成も含めて考えていきたい。

●小崎委員

はじめに、人づくり推進方針が策定されたら、どこに、どのように発信されるのか、お聞きしたい。

●村岡知事

県議会に報告するとともに、記者発表やホームページ等にも掲載する。また、教育現場など必要なところに個別にお知らせする予定である。

また、方針に基づく具体的な取組もあるので、方針とセットで展開していくことになる。

●小崎委員

《憧れの連鎖》については、私も参加した2回目のトークセッションであった言葉だが、素敵な言葉であり、県の方針に記載されていることを嬉しく思う。

コミュニティ・スクールに「楽しい」という言葉がついていることに少し驚いたが、「楽しい」とか「憧れ」などは、私たち一県民、一保護者としてとても理解しやすいし、馴染みやすいと思う。

第1回人づくり会議で、取組を進めるに当たって、コミュニティ・スクールの仕組みを生かしていくことや、県がめざす「やまぐちっ子のすがた」をベースとして子どもたちに思いやり、優しさ、正義感、倫理感を大事にする視点を忘れてはならないとの発言があったが、私もそのとおりだと思う。

これからの社会に対応していく力も必要で、グローバルな人材を育てることも大切だと思うが、やはり人として一番大事にしないといけない心の部分を育てるのはやはり身近にいる大人だと思う。そのためには、推進方針の趣旨や取組が、先生方や保護者、コミュニティ・スクールに関わる皆さんにしっかり伝わるように取り組んでいただきたい。

子どもを育てると同時に、私たち大人も育っていかないといけないと思っており、大人たちも成長していけるような取組も県の方でも考えていただきたい。

トークセッションに参加して、よい意見をたくさんいただけたが、今後も、いろいろな方の意見を聞ける機会を是非増やしていただきたい。

●村岡知事

推進方針の趣旨、県の考えなどを多くの方々に理解してもらい、同じ目標に向かって取り組んでいきたい。

御指摘のとおり、学校現場だけではなく、コミュニティ・スクールや地域の方々、保護者などにしっかり届いて、受け入れられる方法を考えていきたい。

思いやりや優しさ、正義感、倫理観という心の部分は、まさにこれからの時代はますます重要になってくると思う。心の部分は、学校の現場だけでなく、コミュニティ・スクールなど地域の方々子どもたちと関わる中で育まれる部分も大きいと思う。

そのためには大人も成長する必要があるというのはおっしゃるとおりだと思うので、是非大人も成長するような具体的な取組を進めていきたい。

●穎原委員

推進方針は、様々な視点から非常に熟慮されていると思う。

I C Tを活用した学習について、最近は英語教育においても、例えばネイティブの授業を受けるサービスや、日本語と英語のオンラインでの相互学習の相手をアプリで探すサービス、スマホを活用した英会話など、様々なツールがある。

これは学校というより個人の取組という面もあるし、料金が発生するような問題もあると思うが、英語の「話す」、「聞く」力の向上は、会話の学習にかかる時間と比例すると思う。現在様々なツールがあるので、そのあたりの情報提供なども有効ではないかと感じている。

また、「ふるさとを愛し、『志』について考え『行動』に移していく若者の育成」については、歴史文化施設の視察などももちろん良いが、より若者に馴染みやすいサブカルチャー的な要素も取り入れて、例えば維新の志士を題材にして漫画やアニメなどを入り口として活用して、山口の歴史について興味を持ってもらう取組もあっていいのではないかと思う。

課題解決型ワークショップについて、テーマの一つとして、観光、特に高齢化の進んでいる地域の課題解決などをテーマに活性化のアイデアを出してもらいたい面もあるが、まずは過疎地に興味を持ってもらうことから進めていただきたいという希望がある。

これから人づくり推進方針を策定していく中で議論を重ねられて、重点的に取り組む課題が絞られていくと思うが、山口県の未来を担う人材の育成が効果的に推進されていくことを期待している。

●村岡知事

I C Tについては、機器を整備するだけではなく、その先の活用が大事であり、最近はいろいろなソフトやアプリが開発され、教材も充実しているので、それらを活用していかなければいけないと思う。

特に英会話では、「読む」、「書く」だけでなく、「話す」、「聞く」力をつけるためには、I C Tは効果的だと思うので、そのようなツールを最大限に使っていくため、早く環境を整えていかなければと考えている。

歴史については、いろいろわかってくると面白いが、そこに入るまでがなかなか難しい世界という面もあるので、導入部分、入口のところを入りやすくするというのは御指摘のとおりと思う。

課題解決型のワークショップについては、若い人たちは地域の活性化に非常に関心が高いところもあるので、本人たちが是非やりたいと思うテーマと地域が求めているテーマをうまく組み合わせたいと思う。

●浅原教育長

人づくり推進方針の中間整理については、これまでの人づくり会議の議論や

トークセッションの意見をきちんと踏まえた内容になっていると考えている。

教育の関係については、ふるさと山口への誇りと愛着を高める、新たな価値を創造する力の育成、あるいはICT化、コミュニティ・スクールなど、本当に大切なものがきちんと整理をされていると思う。

県教委としても、この中間整理を踏まえ、来年度当初予算の編成の中で具体的な施策については検討してまいりたい。

また、9月県議会でも問題提起をされた小学校・中学校卒業段階における県外流出について、県教委と知事部局の職員をメンバーとするワーキング・グループを設置して、実態調査を実施したので、この場を借りて説明させていただく。

(別添資料により説明)

調査の対象は国公立小・中学校の卒業生で県外の学校に進学をした者について、校長から過去3年間の状況を聞き取ってまとめたものであり、学校には、分かる範囲で回答を依頼しているので、確定的なものではないことをまず御理解いただきたい。

小学校卒業後の状況については、3年間合計で511人が県外に進学しており、そのうち勉学が目的の者が265人、51.9%、次にスポーツが目的となっている。

勉学目的265人の内訳について、156人が入難大希望者数(入学難易度が高い大学への進学希望者数)で約59%、医学部希望者が54人、約20%である。

地域ごとの状況は、岩国から広島県が74人、下関から福岡県が83人であり、通学の状況は、自宅から通学している者が177人、寮・下宿・親戚の家から通学している者が53人である。

中学校卒業後の状況については、3年間合計で1,046人が県外に進学しており、そのうち勉学目的が233人、22.3%、スポーツが365人、34.8%となっている。

勉学目的233人の内訳について、入難大希望が66人、28%、医師希望が18人で8%である。

地域ごとの状況は、岩国から広島県が83人、下関から福岡県が54人、通学の状況は、自宅から137人、寮・下宿・親戚宅から59人であり、広島、福岡へ入難大希望あるいは医師希望ということで出て行く者が多いということはお分かりかと思う。

簡単にまとめると、県外へ進学する子どもたちは、中学校卒業時より小学校から中学校へ進学する段階が多く、その進学先は、広島県、福岡県の、特に進学実績の高い私立の中高一貫教育校が多い。

そこで、本県の公立の中高一貫教育校のあり方について今後、是非、研究していかなければいけないと考えている。

医師の話もあったが、山口県の高校に進学してもなかなか医師になりにくいと考えて、県外の高校に進学する者もいると思われる。医師を希望する生徒にも魅力ある高校が県内にあれば、小学校段階での流出も減少すると考えている。

また、少子化の影響で学校が小規模化しており、切磋琢磨する機会が減少しているという状況の中、いい意味で生徒が切磋琢磨をする場が必要だと考えている。

県教委では、今年度「やまぐちで学ぶ！高校教育魅力向上事業」を立ち上げ、志を持った生徒を一堂に集めて、切磋琢磨する機会を作っているが、中高一貫教育校の見直しや制度の見直しなどには検討に一定の時間がかかることから、県外流出の対策として、このような事業の拡大についても、併せて検討する必要があると考えている。

また、県外に出なくても山口県で最先端の教育を受ける機会の確保につなげていくため、是非ICTの整備にも積極的に取り組んでいきたいと考えている。

●村岡知事

ワーキング・グループで調査された内容については、県外への流出が非常に深刻だということがよく分かった。

その中でも、医師不足は深刻な問題であり、特に山口県は若手の医師が少なく、医師の平均年齢が日本一高い県であり、これから先、医療人材が確保できなければ地域の医療が崩壊することが容易に想像できる状況にある。

こうした中、山口県で医師になってもらうためには、その人材の育成からやっつけていかなければならないが、医師になるまでに高校、大学、研修医まで14年もかかるということもあり、早く手を打っていかねばいけないと考えている。

山口県内で医師の希望をもった児童生徒がしっかりと県内で学び、県内で活躍できる環境を整えていくことが非常に重要であり、そのための環境整備を是非やっつけていかねばと考えている。高校の見直しやICT環境の整備なども含めて、総合的に考えていく必要があると思う。

様々な御意見をいただいたところであるが、今日の議題である人づくり推進方針及び令和2年度重点取組方針ともに、本案のとおり進めていくこととしてよろしいか。

(委員から「異議なし」の声や頷きの反応あり)

では、いただいた御意見を十分に生かして、今後の事業の推進や施策の構築等をしっかり進めていきたいと思う。

(4)その他

●村岡知事

本日は、貴重な御意見を賜り、感謝申し上げます。

皆様方の御協力により、新たな人づくりの推進方針の方向性、令和2年度重点取組方針を決定することができた。

今後は、来年度の具体的な取組等について、先日発表した令和2年度の当初予算編成方針のもと、検討を進めていくこととなる。

昨年度策定した維新プラン及び教育大綱、さらに今年度末に策定する人づくり推進方針に沿って、本県の教育の一層の充実にしっかり取り組んでいく。

委員の皆様方のなお一層の御協力をお願い申し上げて、まとめの挨拶とさせていただきます。

6 閉会（事務局）

（以 上）